

## 電気自動車充電インフラの整備について（改訂継続）

地球温暖化や大気汚染問題への環境対応は、イギリスが2030年、フランスが2040年までにガソリン車・ディーゼル車の国内販売を禁じる方針を決定するなど、欧州車各社のEV転換気運を高めています。アジアにおいても、中国やインドが環境規制を盾に電動車優遇の国策を打ち出すなど、現在の自動車メーカーへ「EVへの大転換と加速化」という現実を突きつけています。

日本においても、2030年には電気自動車やプラグインハイブリット自動車が、新車販売の20～30%にまで普及すると言われておりますが、このような流れの中で桐生市内の充電スタンドの数は17ヶ所と、県内他都市（前橋：105、高崎：91、伊勢崎：57、太田：57）と比較しても少なすぎると思われます（スタンド数はNAVITIME「群馬県の電気自動車充電スタンド」より）。

先般、市内企業の寄附により文化会館入口に充電スタンドが1台設置されましたが、新庁舎が建設される市役所をはじめとする市有施設への設置、民間が設置する場合の助成金制度の創設など、桐生市内の電気自動車充電インフラの早急な整備促進に繋がる諸施策を講じられますよう強く要望いたします。

### 桐生市からの回答

電気自動車充電設備につきましては、市役所新庁舎への設置を基本設計に盛り込みました。

引き続き、道の駅くろほね「やまびこ」、群馬銀行桐生支店及び美喜仁桐生文化会館に設置されている設備の稼働状況や電気自動車の普及状況も踏まえながら、より効果的な設置場所や導入方法について、研究してまいります。

また、民間の設置希望者には国の補助制度を案内するなど、整備促進を図ってまいります。

[回答担当] 市民生活部環境課環境都市推進担当